

愛知県庁本庁舎屋根改修工事

(文化財建築物保存技術協会・戸田・榊原特定建設工事共同企業体・小野工業所)

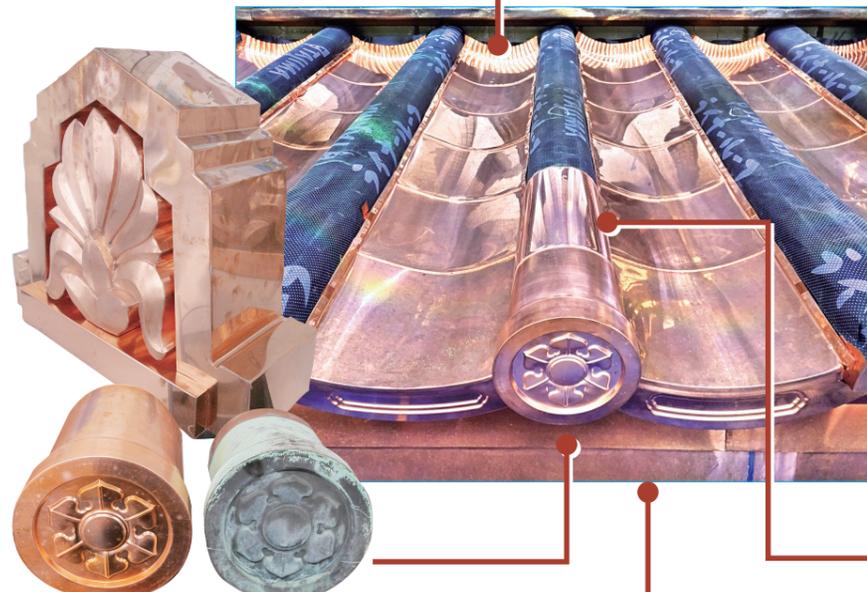


葺き替え前

鉄骨鉄筋コンクリート造、地上6階地下1階。城郭風の本瓦型銅板葺が特徴的な愛知県庁本庁舎。隣接する名古屋市役所本庁舎も重要文化財となっている。市役所は緑青色の屋根瓦なので、葺き替え後はその対比も楽しめそうだ。



平瓦型銅板の最上部は絞り加工が施されており、職人が手作業で絞りをやっている。



軒付けや鬼飾りといった装飾品は、木を彫った原型に銅板を当て、入念に打ち出して浮き出てくる凹凸で造形していく。



2枚の銅板の端を折り曲げ、引っ掛け合わせて継ぐ「はぜ組」で繋ぎ合わせている。はぜ部分を木槌で叩いて組み合わせる。

本瓦型銅板葺

屋根の流れに沿って瓦棒心木を取り付け、銅板を葺いた屋根。瓦棒心木に銅屋根を丹念にかぶせていき、全面を仕上げる。

数ヶ月

数年

十数年

赤橙色

褐色

暗褐色

黒褐色

緑青色

新しい銅板は、空気に触れると表面酸化が始まって約1ヶ月で光沢がなくなり、いくつかの過程を経て、緑青色へと色調が変化していく。

重要文化財 銅板葺き替え 工事現場レポ

美しい緑青をふいた銅板屋根が特徴的な両庁舎は、共に重要文化財に指定されており現在改修工事中。文化財建造物の保存修理はその価値を損ねないよう、文化庁指導のもと綿密な調査と慎重な作業が必要になる。緑青色の銅板屋根に慣れ親しんできた文化財だが、新しい銅板は赤褐色と様変わりとなる。2つの重要文化財の葺き替え修復工事の様子をレポートする。

葺き替え前の美しい緑青色の八角塔屋根。赤れんが庁舎。リニューアルでは歴史文化・情報発信拠点としながら、飲食スペースや催事スペースなどが予定されている。

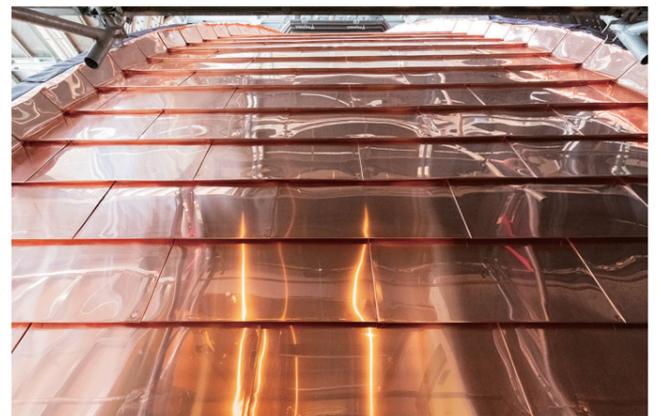
新しい銅板に葺き替わった八角塔屋根を仮設見学施設(令和6年5月閉館)にて移設展示。現在は庁舎の元の位置に復旧された姿を見ることが出来る。

北海道庁旧本庁舎改修事業

(北海道建設部建築局建築整備課・文化財建築物保存技術協会・北海道庁旧本庁舎改修事業受注コンソーシアム)



葺き替え前



銅板屋根は横葺きとなっている。写真のような金属光沢が残る付まいの八角塔が見られるのは、庁舎へ復旧した直後のみになるだろう。



昭和43年の復元工事は図面が焼失して見つからず、古写真を目視しての工事となった。復元工事後に奇跡的に立面図が見つかったが、立面図とほぼ変わらない正確さであったという。これはその立面図。



▲左から 北海道建設部建築局建築整備課 課長補佐・佐藤信也さん/文化財建築物保存技術協会 佐野春菜さん/赤れんが庁舎改修事業受注コンソーシアム 施工業務担当 竹中工務店 西野祐二さん

取材協力

北海道札幌市。通称「赤れんが庁舎」で親しまれている北海道庁旧本庁舎は、明治21年(1888年)に日本人技師が設計したアメリカ風ネオ・バロック様式のれんが造りで、銅板屋根の八角塔が象徴的な建造物だ。建築当初に鎮座していた八角塔は、およそ7年ほどで強度不足のために撤去され、さらに明治42年(1909年)の火災で内部を焼失し、設計図などを焼失。その後、北海道百年を記念して、昭和43年(1968年)に八角塔を含めた創建当時の姿に復元した。優れた明治時代の洋風建築物は国内でも数少なく、翌44年、国から重要文化財の指定を受けている。現在耐震対策を含めた改修工事を進めており、リニューアルオープンは今和7年度となっている。今回の八角塔の屋根銅板はおよそ1000枚程度で、その葺き替えは従来の工法と同様に手作業で行っている。取り外した旧銅板の重量は300kgほどと見積もられており、この一部は展示用に保存される予定だ。

愛知県庁本庁舎は、昭和13年(1938年)完成。戦争が拡大しつつある時であり、国威発揚の波に乗って日本の伝統を建築に反映させるべく、鉄骨鉄筋コンクリート造の洋風建築に城郭風の銅板葺の屋根を乗せた「帝冠様式」と呼ばれる意匠が特徴で、平成26年(2014年)に重要文化財に指定されている。老朽化で屋根の銅板の落下が相次いだことにより、銅板の葺き替えを伴う修理工事が令和4年(2022年)から始まった。南屋根、北屋根、西屋根、3つすべての銅板屋根の葺き替えで、工事完了は令和8年(2026年)1月予定。現在のところ工事の進捗は順調とのこと。

修復作業中は屋根全体を素屋根で覆っており、外部から葺き替えた金属光沢が残る銅板屋根を見ることはできなかった。順次、作業が完了した屋根から素屋根が取り除かれるとのこと、本年7月には北屋根が目見えする予定とのこと。



▲左から 文化財建築物保存技術協会 参事 加藤修治さん/戸田建設 作業所長 山本千春さん/小野工業所名古屋営業所長 山本誠児さん/文化財建築物保存技術協会 技術主任 田村琢さん

取材協力